

## 第3回 ONDA（大阪・構造物非破壊診断交流会） 議事録

日 時：平成19年5月16日（水） 14：45～17：10

場 所：非破壊検査（株） 本社 9F会議室およびB1F

出席者：鎌田会長，葛目幹事，森幹事，藤原，松沢，吉田，成清（京都大学 大学院生，特別参加），芳賀（京都大学 大学院生，特別参加），内田（記録）  
以上9名（順不同，敬称略）

配布資料：3-0 第3回 大阪・構造物非破壊診断交流会 議事次第  
3-1 第2回 大阪・構造物非破壊診断交流会 議事録（案）  
3-2 土木学会 コンクリート委員会 3種委員会 設置提案書：鎌田会長  
3-3 土木学会 弾性波法の非破壊検査研究小委員会（第2期）  
WG1 活動報告：鎌田会長  
3-4 土木学会 弾性波法の非破壊検査研究小委員会（第2期）  
WG2 活動報告（動弾性係数について）：鎌田会長  
3-5 ONDAのホームページ開設にあたり：内田

議 事：

### 1. 会長挨拶

開催の挨拶が鎌田会長よりあった。

### 2. 第3回議事次第

鎌田会長より，本日の交流会および計測装置や施設見学の進め方について説明があった。

### 3. 第2回議事録（案）の確認

内田より説明があり，内容確認が行われ承諾された。

### 4. 話題提供

- (1) 鎌田会長より土木学会 コンクリート委員会 3種委員会のなかで，「コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会」を設置するとの報告および委員への参加の呼びかけがあった。本委員会は，鎌田会長が委員長を勤める委員会であり，①非破壊評価方法の理論化・標準化研究，および②非破壊評価方法の教育プログラム研究の2点について活動をするとの説明があった。非破壊評価の原理や適用範囲が一般技術者に十分理解されていない現状を踏まえて，特に②について精力的に研究するとの説明も加えられた。
- (2) 土木学会 弾性波法の非破壊検査研究小委員会（第2期）WG1 活動の報告が，鎌田会長より行われた。弾性波法を活用すれば，コンクリート構造物を破壊せずに種々の劣化に起因するコンクリート内部の欠陥情報を検出できると思われる

ている現状を踏まえて、弾性波法が適用できうる範囲を明確にすることが重要であるとの説明があった。そのためには、計測装置やセンサ、信号処理などを規定するのではなく、弾性波法の原理に基づき、適切な測定方法により、評価対象に応じた弾性波特性値を活用することが重要であるとの説明も加えられた。

(3) 土木学会 弾性波法の非破壊検査研究小委員会（第2期）WG2における動弾性係数についての解説が、鎌田会長より行われた。たわみ振動および縦振動に基づいて算出された動弾性係数は、それぞれ異なる値となるとの説明があった。これは、コンクリートの断面において動弾性係数に分布があるため、計測された動弾性係数はたわみ振動と縦振動ではそれぞれ異なるとの説明があり、興味深い内容であった。

(4) ONDA のホームページ（HP）開設にあたり、HP 作成の際に注意した点についての説明が内田より行われた。さらに、実際に作成した HP を閲覧して頂き、修正事項をメンバー間で列挙した。以下にそれらを示す。

① HP のタイトルは、「ONDA（大阪・構造物非破壊診断交流会）」とする。

② ヘッダーにトピックスを追加する。

開設時期としては、遅くとも次回の交流会までとし、その後は、例えばコンクリート工学協会の読者コーナーあるいは非破壊検査協会の機関誌に、交流会結成および HP 開設について投稿することも併せて承認を頂いた。

## 5. 計測装置および施設の見学

森幹事および松沢会員より、非破壊検査さんが所有する計測装置や研究開発、施設を案内して頂いた。特に、前回（第2回）の交流会で森幹事が発表された「打音解析システム」のデモンストレーションをして頂き、非常に興味深い内容であった。

## 6. 今後の予定

第4回交流会：平成19年7月24日（火）15：00～17：00

場所：大阪大学中之島センター

以上

（記録：内田）